

教育方針	ふるさとを愛し、社会の変化に柔軟に対応して、地域の豊かな未来を主体的に創造する担い手を育てる。汗を流し命を育む農業教育を通して、豊かな感性と困難を乗り越える強い心意気を養い、専門的な学びを深めて社会に貢献する職業人を育成する。	重点目標	「羽包(はくく)む」から「羽ばたく」そして将来の「羽振りへ」 地域に愛され、地域を愛し、地域とともに歩む西農 —100年分の感謝と新たな飛躍—
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	学習習慣の確立	教科の宿題・課題をきちんとこなすなど、家庭学習を習慣化させる(平日1時間、考査中2時間以上)。	C	家庭学習の平均時間は2学期の考査中、1年生が97分、2年生86分、3年生83分、全体で89分であり、残念ながら昨年度よりも大幅に減少した。	次年度からは中間考査が無くなり、各学期末考査のみになる。観点別学習状況の評価への移行により、日々の授業や宿題、課題等への取り組みが従来よりも重視されてくるため、評価方法の変更などを生徒や保護者に周知
	学習の質の向上	ICTの利用等で効果的な学習を実践するなど授業満足度の向上を目指す。また、各学期末の授業アンケートを基に授業改善に各教科で取り組む。	A	コロナ関連の出席停止者が続出中、教職員の積極的な姿勢によりICTを活用した授業が定着してきた感がある。あとはそれらをどう評価に落とし込むかが課題ではあるが、各科目担当者は工夫して多様な生徒の授業満足度向上に向けて努力中。	次年度以降も事情を抱える多様な生徒に対してICTを利用した興味・関心を引き起こす授業展開や学習障害を持つ生徒への支援を実践し、一人一人を見つめた教育を進め、すべての生徒を社会で活躍できる人間に育てていくという指導を今後も継続していきたい。また、それに準じた校内規定の整理
	読書指導の充実	授業との連携を図り、一人当たり貸出冊数3冊以上を目指す。朝の読書を充実させ、静寂の中で全員が読書を行うよう指導する。	A	学校訪問あり、朝の読書に関しては、目標を達成できたと考えている。	SHRが短縮されたこと、欠席が多い生徒、読書に関する支援を必要とする生徒への対応など、担任・副担任の先生に大きな負担をかけているため、来年度の朝読書は実施しない方向で検討している。ただ、昨年度、一昨年度に比べ、図書室を利用する生徒も増えている。学校全体の読書への取り組みは、向上している。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生活のリズムをしっかりと作り、出席率95%を目指す。A:95%以上、B:94~85%、C:84~75%、D:74~65%、E:65%未満 身だしなみ指導1回目での合格率90%以上を目指す。A:90%以上、B:89~75%、C:74~65%、D:64~50%、E:50%未満	B	出席に関しては、「出席停止」や「長期欠席者」がいるために多く休んでいると感じるが、数字は、「B:94~85%」に収まっている。身だしなみ指導も全体では「B:89~75%」に収まっている。	新型コロナウイルス(後遺症も含む)による影響もあり、授業へ参加している人数が少ない日があり続いた。次年度は欠席だけでなく、遅刻や早退についても身だしなみ指導1回目でも不合格になった者が2回目でも合格せずに、合格するまでに複数回かかる者が増えてきている。初回で合格するような働きかけをしていきたい。
	規範意識の高揚	生徒・保護者と教職員が共通理解を図り、生徒の安全を確保し、学習環境を整える。 また生徒会を主体として校則の見直しを行う。	B	生徒・保護者に理解が得られない場面も見られた。生徒会を中心に「校則」「制服」を検討する話し合いを数回持つことができた。	生徒の「安全」「安心」を第一に考え、当事者や関係者だけでなく、多方面と協力していこうと考えている。令和6年度から新しい「校則」「制服」でスタートができるように検討委員会を立ち上げたい。
	学校行事・部活動の充実	部活動の活性化(加入率90%以上)を推進する。生徒会が中心となって学校行事の運営や改革を行う。	A	あいつつ運動、朝礼、グループマッチ、運動会、西農祭等生徒会が中心となって運営することができた。西農祭ではステージ企画をした。耐久競走大会を3年ぶりに開催することができた。委員会活動やその報告も充実している。	部活動については、加入状況を維持しながらさらに活性化を図りたい。生徒会が中心となり学校行事の運営がされているが、さらに生徒が主体的に参画できるようにしたい。特に、グループマッチや西農祭においては生徒のアイデアや工夫を大切に生徒主役の行事にしたい。
教育相談	生徒との面談時間の確保	表情が気になる生徒がいたら声を掛け、少しでも不安を減らし、安心した学校生活が送れるよう手助けする。要配慮の生徒に対しては、校外の機関と連携を取ったり、ケース会を頻繁に行い、個別最適な支援を行う。	B	生徒・保護者に理解が得られない場面も見られた。生徒会を中心に「校則」「制服」を検討する話し合いを数回持つことができた。	今後も多様な生徒を受け入れるためには、現状を理解し、話し合いにより、体制を整えたい。合理的配慮に関しては、特定の職員のみには負担がかかることのないよう、できる配慮とできない配慮を判断し、適切な支援を提供していきたい。生徒課・人権教育課とも連携し、全ての生徒が学校への所属感を覚えるようにしたい。
進路指導	進学指導の充実	課外への出席率100%を目指し、学びに向かう学力を高めさせる。 オープンキャンパスへの参加率100%を目指し、最適な進学先を選択させる。 第一志望校への進学100%を実現する。 A:100%、B:99~90%、C:89~80%、D:79~70%、E:69%未満	B	B:進学希望者に対する課外であり、意欲の高い生徒が参加したがコロナ禍でもあり100%とはならなかった。(95%) B:まだまだコロナ禍の影響が大きかったが、オンラインでの対応でカバーされた部分が大きかったと考えている。(94%) B:看護系受験者が1名第一希望を逃したもののほぼ全員が第一希望を達成している。現行体制で1名が第一希望での受験希望者などにも柔軟に対応していただくことにより、100%参加した。	・次年度は、進学希望者数が大きく減少する見通しであるが、国公立大学合格を目指している生徒もおり、全校体制で合格に向けて取り組む。 ・コロナ禍ではあるが、ICT機器の活用方法を検討し、より具体的なキャリア形成ができるよう働きかけていきたい。 ・今年度引き続き、進学希望者の第一志望校全員合格を目指したい。
	就職指導の充実	応募前見学への参加率100%を目指し、職業観を確立させ、企業とのミスマッチをなくさせる。 就職内定率100%を実現する。 A:100%、B:99~95%、C:94~90%、D:89~85%、E:84%未満	B	・次年度は、進学希望者数が大きく減少する見通しであるが、国公立大学合格を目指している生徒もおり、全校体制で合格に向けて取り組む。 ・コロナ禍ではあるが、ICT機器の活用方法を検討し、より具体的なキャリア形成ができるよう働きかけていきたい。 ・今年度引き続き、進学希望者の第一志望校全員合格を目指したい。	・生徒との面談を充実させ、より早期の職業観の確立、ミスマッチのない進路希望の具体化を目指す。 ・校内での企業説明会への積極的な参加を促し、企業理解と同時に学校生活の充実にも意識付けを図りたい。 ・市役所受検ではコロナ感染による後日受験等の対応がいただかなかった。民間企業と同様に後日受験等の対応を願う。
農業教育	<食農科学科> 地域との繋がり、専門教育・研究活動の充実	生徒の地域活動への参加を通して、自己の知識・技術の深化を進める。地域活動への参加率100%を目指し、コミュニケーション能力を高める。 A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:50%未満 積極的・意欲的にプロジェクト学習に取り組ませることによって人間力を養う	B	【地域活動への参加】 B:地域活動への参加については、幼稚園との交流やふれあい体験学級の開催、地域向け販売イベントや交流会、講習会の参加など積極的に取り組み、深化を進めることができた。コロナ禍により100%とはいかなかった。	【地域活動への参加】 各部門での取組をさらに地域に広げ、商品開発を行ったり、共同研究を行うなど協働・発展させるような工夫を行いたい。 【プロジェクト活動】 プロジェクトの成果による生徒の成長や地域の評価などを数値化できるようタブレット端末を活用した調査も
	<環境工学科> 地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実	地域人材を活用して国家資格や各種検定等の合格率80%を目指す。 A:80%以上、B:79~70%、C:69~60%、D:59~50%、E:49%未満 各種コンテスト等に積極的に取り組み、5点以上応募する。 A:5点以上 B:4点 C:3点 D:2点 E:1点 アクティブラーニングを推進し、学びに向かう人間性を育成する。	B	【資格取得】 造園系の資格は受験しなかったが、測量士補、土木施工管理技術検定とも、数名の合格者が出た。合格率は50%以下となるが、次年度への期待が持てる成果はできている。 【コンテスト等参加】 農業クラブの発表以外にも、2年生を中心に各種コンテストへ参加し、成果を上げた。	【資格取得】 造園系の資格については、教員が研修を受ける機会を得た。土木系の資格についても、個別に指導する場面を設けて、学習意欲の向上を目指したい。 【コンテスト等参加】 地域や生徒の興味関心につながるものの中から精選し、積極的に取り組むよう働きかけるとともに、マスコミなどの広報により、自分たちの活動に自信が持てる。模範の合格率が低い背景には、学習意欲を向上させることができなかったことが原因であると考えている。「なぜ」この学習が必要であるか、について考えさせ、学習者主体の学びを実現していきたい。一人一台端末は有効に扱えているが、組織としての取り組みになっていないので、組織的に活用しているように、同期・非同同期問わず、研修等を積極的に進めていきたい。 来年度も引き続き情報発信を行っていき、クオリティを高められるようにしたい。
	<生活デザイン科> 地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実	行事の案内や競技結果を公表し、各種諸行事への積極的参加を呼びかける。また「新しい生活様式」に適応した運営を行う。 県大会での入賞率50%以上、全国大会での入賞100%を目指す。 (県大会) A:50%以上、B:49~40%、C:39~35%、D:34~30%、E:29%未満 (全国大会) A:100%、B:99~80%、C:79~60%、D:59~50%、E:49%未満	C	【検定】 家庭科技術検定合格率は調理1級で28%、和服2級は61%であった。 【情報化認定】 学校情報化認定のチェックでは、レベル1.75となり、目標には届かなかった。 【情報発信】 アウトプットに関しては生徒全員が行うことができ、目標は達成できた。	生徒の活躍でよい成果を残しているが、全国の壁は厚い。競技会以外での場面でも全校を挙げて農業クラブ活動を盛り上げることができているが、さらに一般生徒への意識付けを高め、より活性化させたい。県大会以上での入賞率を高めるため、引き続き、学科単位で細やかな指導を行うとともに先輩からの引き継ぎにも力を入れ、今後の各種行事のあり方についても柔軟に対応していきたい。
総務	PTA活動の活性化と広報活動の充実 校内諸行事の円滑な運営	保護者が学校行事へ積極的に参加できるよう、行事内容を工夫し、出席率の向上を図るとともに広報活動を充実させる。 各部・各課との連携を強化し、各種諸行事の充実を図る。	B	保護者が参加できる行事の多くが中止・規模縮小となったが、運動会には多くの保護者に来ていただくことができた。また、PTA理事へも多くの人が積極的に参加していただくことができた。各種研修会にも参加していただいた。	マチコミメールを活用し、校内・校外の各種行事への積極的な呼びかけをしていく。また、学校の様子などを今以上にホームページやマチコミで積極的に情報発信していく。次年度は、今年度できなかった行事、規模縮小した行事を例年以上の成果のあるものに教職員と保護者が一丸となって取り組み、各種行事を充実させたい。
環境厚生	美化意識の高揚 地域への貢献	地域へのボランティア活動を2回実施する。地域に役立つ人材を育成する。	B	美化委員会と有志の生徒で、加茂川土手の雑草除去の作業を2度行った。	来年度は広報活動に力を注ぎ、SDGsの徹底を図りたい。また地域ボランティア活動を2回は実施したい。
研修	校外研修の充実とICT活用力の育成	基礎研修の充実を図り、教員のライフステージに応じた資質・能力の向上・定着を図る。 校外における研修を充実させ、教員の資質向上を図るとともに、ICTを活用した双方向授業の方法等を研究する。	C	ICTの研修などを行い、教員の意識向上に努めることができた。ただ、電子機器に関しては、不慣れなところもあり、スムーズな運用には至っていない。	通信機器の不具合などトラブルへの対応は十分にできていない。学校のセキュリティ管理上仕方がない部分もあるが、情報担当者の負担が大きい。今後も研修をし、資質向上に努めたい。
人権教育	人権・同和教育の充実	人権・同和教育についての研修や情報発信の充実に努め、生徒の自己肯定感や人権意識の向上を図る。	B	毎月「人権を考える日」にかかわって、西条市の人権擁護委員の資料などを提示し、情報発信や人権意識の向上を図った。	人権委員会などで、積極的に人権・同和教育活動などに携わるようにしていく。また、生徒の自己肯定感の向上や望ましい仲間づくりについて生徒自身が考える機会を設ける。
業務改善	勤務時間の適正化	業務の効率化に努めるとともに教職員全体の更なる行動改革を進め、適正な勤務時間に対して積極的に評価する。	B	2学期から、金曜日を「ノー残業デー」に設定し、教職員の勤務時間短縮に対する意識が明らかに高まった。	月あたりの勤務時間外在校等時間を見てみると、80時間を超えている教職員が減少はしているが何名かいらっしやるので、業務の合理化と意識改革を同時に進めていきたい。
	職場環境の整備	教職員との健康相談や面談を定期的実施し、円滑な人間関係の構築に努める。	C	コロナ禍の中でも職場の人間関係は徐々によくなってきている。	定期的な面談とともに、職員室での挨拶や雑談、情報交換を大切にしていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。